

## むさしの園で輝く人①



「時々寂しいけど、成長を実感しています。」

ひとり暮らしについて

むさしの園は、遠方からの就職者に対してアパートを紹介してくれるので、私もその紹介で今のアパートを決めました。

**熊谷恵里**

(2008年入職・岩手県出身)

そもそも、なぜ私が埼玉県にあるむさしの園を知ったのかというと、インターネットで介護職の求人サイトで関東地方を調べていて、その中で色々な施設のHPを見ていた時にパッと目に入ったのがむさしの園のHPでした。たくさんある写真や職員さんのメッセージを見て「この施設、楽しそうで暖かいな」と感じました。他の施設も見ましたが、印象が強く残り是非、一度見学したいと思い電話をかけたのが始まりでした。

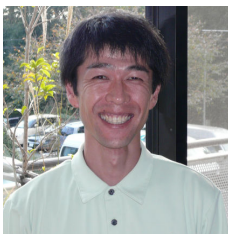


内定をいただいた後、どのような部屋に住みたいか、希望の家賃、施設からの距離はどのくらいが良いかなどを

施設長と話し、条件に合ういくつかのアパートを紹介していただきました。又、家賃によって住宅手当も変わってくるので、詳しく説明してもらいました。

知らない土地での初めての就職、そして初めての一人暮らしになるので、お給料でやっていけるのかなど様々な不安もありましたが、全て教えていただけるのでとても助かりました。そのあとは家族とも話し合い、仲介会社であるエイブルさんに親と一緒に行き、何ヶ所か実際に部屋を見て、今のアパートに決めました。

初めての一人暮らしは、やっぱり寂しいです(笑) 今でも、時々実家に帰りたいたいと思えずし、なによりも地元の友達に会いたいという気持ちがあります。でも、自分で生活をやりくりしているので、大人になっているというか、自立していると感じることが出来ます。また、自由な時間が持てるので、仕事が休みの時は自分の好きな事が出来ることも魅力的だと思います。東京へも行きやすいので、様々な楽しみがもてると思います。



### 上司から一言

リーダー：早川 隆夫

岩手県から埼玉の狭山市へ、家族の元から1人暮らし…。又、初めての就職と、生活スタイルが激変し不安やストレスも大きかったのではないかと思います。チームに配属されてから、コツコツと仕事を覚えて頂けたと思います。入居者様や職員とも上手くコミュニケーションを取り、楽しく明るい笑顔が見られて安心しております。仕事のこと、他にもいろいろなことを考えている熊谷さんですから困った時とか難しいことにぶち当たったら相談して下さい。また、気晴らしに皆で食事にも行きましょう。これからも今のペースで熊谷さんなりに業務に就いて頂けたら、入居者様により良いケアが提供できると思います。『Smile』を忘れずに……。



## 「いまの自分にできること」

## 有道 亮

(2008年入職・東京都出身)

社会福祉学科を卒業した私は現場を知りたいという気持ちで介護職に就職を志望しました。

在学中にホームヘルパー2級の資格を取得していましたが、やはり介護職としての特養の現場は初めてのことばかり。最初の2ヶ月は担当先輩がマンツーマンで付いているいろいろ聞くことが出来ましたが、1日の業務の流れを覚えたり、担当のご利用者様の状況を把握するのに精一杯でした。しかし、徐々に慣れてくると、やりたかった仕事が出来るとの満足感、少しずつ成長していく実感、周りの先輩・同期と打ち解けていけることが楽しく、充実した毎日でした。



しかしある日、突然でした。

入職してわずか2・3ヶ月、勤務中に持病の『癒着性イレウス・腸捻転（腸の動きが止まり、ひねって流れが悪くなること）』が起き救急車で搬送、緊急外来へ入院しました。その後鼻から管を入れたまま2週間も入院。退院後はまた現場に復帰しましたがまもなくして再発、入院することになってしまいました。

2度目の入院をきっかけに、私は主任やチームリーダーと今後のことをじっくり話し合いました。私はどうしても介護職として働きたかったのですが、夜勤中に再発してしまうと利用者様のケアが出来ない。そんな不安な状態で勤務することはできませんでした。これ以上の迷惑はかけられないと判断し、介護職から外れることになりました。



学生時代  
福祉の道を  
志した頃

私は小さい頃、おばあちゃん子でした。学生時代はスターバックスで働き、就職活動中は大好きなアパレルの仕事と迷いましたが、より心から感謝されるのはどちらか、高齢者の笑顔に出会える仕事がしたいと思って最終的に介護の仕事を選びました。

小さい頃の楽しい・懐かしいあの記憶、その一つひとつが積み重なり、もしかしたら祖母への恩返しをしようと思ったのかもしれませんが。それなのに、介護の仕事が出来ないのは、やり切れない思いでいっぱいでした。

## むさしの園で輝く人②



そんな時、私は施設長から「在宅介護支援センター」への異動を命じられました。地域の方々から相談を受けたり、介護予防教室の実施をする部署です。病気とはいえ、現場で慣れた矢先の異動、今まで異なる勝手に戸惑いました。しかし、先輩のサポートに助けられ、併設のデイサービスとも連携して徐々に慣れることが出来ました。

入職してもうすぐ1年、いまでは在宅介護支援センターの介護予防教室の企画を練ったり、デイの油圧マシンのプログラムを担当し、地域の高齢者と積極的に関わりを持っています。

その中で強く感じているのは、一言で介護といってもサービスによって様々であり、それぞれ異なる役割のサービス同士の連携が必要であるということです。特養は毎日自分の担当の利用者様に接し、毎日の経過を知り、最善のケアを行うことが出来ます。一方、在宅介護支援センターはデイサービスのご利用者様との接点を持ち、地域の介護ニーズや特性を知ることが出来ます。

短い期間ですが、特養・在宅介護支援センター・デイサービスセンター、多くの部署で経験できたことは貴重な財産だと思っています。介護サービスにそれぞれ特性・役割があるように、私には私にしか出来ない役割があるのではないかと思います。いまは精一杯その仕事に打ち込みたいと思っています。

自分の身体が原因で、特養の先輩方には多大なご迷惑をお掛けした事を今でも悔やんでいます。自分の身体のことを考え、人事異動をして下さった施設長や特養の介護主任、私を引き取ってくれた在宅介護支援センター長に大変感謝しています。

特養の勤務で迷惑をかけたにも関わらず、上司や先輩方が私の身体を気遣って下さり、対応していただける職場が実際にあることに気づき、職員を大切に思っている職場であることを嬉しく思っています。 今後は体調管理に気をつけながら、自分自身もより働きやすい職場を皆さんと一緒に築いていきたいと思っています。



### 上司から一言

入職して半年、初めのうちは訪問してもオドオドしていた場面が多く、ご利用者の方と面接しても何を質問して良いか分からなくなり黙り込んでいました。しかし、最近ではご利用者の方から「有道さん」と声をかけられ、質問にもしっかりとした受け答えをするようになり、この半年で成長したことをうれしく思います。まだまだ、勉強することが山のようにありますが、わからないことがあればいつでも相談にのりますので、同じチームメイトとしてこれからも頑張りましょう！

センター長：室岡 潤司